

学部 / 看護専門領域 / 看護の実践

科目コード：120401

## 母性看護学実習 Practicum:Maternity Nursing

担当教員	米田昌代、瀧耕子、曾山小織、桶作梢、河合美佳、野沢ゆり乃				
実務経験	複数の教員が担当しており、全員に病院等の勤務経験がある。				
開講年次	3年次後期	単位数	2	授業形態	実習
必修・選択	必修	時間数	90		
Keywords	妊婦の看護、産婦の看護、褥婦の看護、新生児の看護、母子の継続看護、社会資源、周産期病棟の看護管理				
学習目的・目標	【目的】 マタニティサイクルにある母子の身体的・心理的な特徴と健康課題への理解を深めるとともに、その家族にも目を向けて母性看護の基礎的な実践能力を養う。 【目標】 1. 周産期にある母子の特徴と看護の特殊性について述べるができる。 2. 産褥期・新生児期にある母児及び家族の健康状態についてアセスメントし、必要な援助を実施し評価することができる。 3. 妊娠期・分娩期の看護、産後健診を通して、母児の継続看護の必要性を考察し、述べるができる。 4. 周産期にある母子をとりまく環境の実際や社会資源の活用方法について説明できる。 5. 周産期の看護援助における妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族の人権ならびに生命の尊厳を守り、プライバシーに配慮した態度をとることができる。 6. 周産期病棟の管理について考えることができる。 7. 周産期医療におけるチーム医療や医師・助産師等他職種の役割や協働の重要性について考えることができる。				
授業計画・内容					
回	内容				
	<p>実習施設の産科外来、産科病棟、分娩室、新生児室等において、以下の内容を見学・実践することによって学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 周産期にある母児の特徴と看護の特殊性</li><li>2. 産褥期・新生児期にある母児及び家族への看護の必要性<ol style="list-style-type: none"><li>1) 褥婦および家族への看護の必要性(看護過程の展開)<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 妊娠期・分娩期の状況から産褥期の健康状態に関連する因子のアセスメント</li><li>(2) 褥婦の健康診査の実際</li><li>(3) 褥婦の身体の変化や健康問題に対するセルフケア能力の観察とアセスメント</li><li>(4) 母乳栄養の確立、母子関係の確立のための母子の状態の観察とアセスメント</li><li>(5) 褥婦の母親役割行動取得過程、役割変化におけるセルフケア能力の観察とアセスメント</li><li>(6) 家族の役割変化に伴う対応状況の確認とアセスメント</li><li>(7) (1)～(6)のアセスメントを基に看護計画立案、基本的看護技術を活用した援助の実施、評価</li></ol></li><li>2) 新生児の看護の必要性<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 胎児期・分娩期の状況から新生児期の健康状態に関連する因子のアセスメント</li><li>(2) 新生児の健康診査の実際</li><li>(3) 新生児の母体外生活適応状態の観察とアセスメント</li><li>(4) (1)～(3)のアセスメントを基に看護計画立案、新生児の母体外生活適応を順調に進めるための援助の実施(環境調整、清潔、栄養管理)</li></ol></li></ol></li><li>3. 妊娠期・分娩期の看護、産後健診を通した母児の継続看護の必要性<ol style="list-style-type: none"><li>1) 妊婦および家族への看護の必要性<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 妊婦健診の流れの実際</li><li>(2) 妊婦・胎児の健康状態、妊婦の心理社会的状況の理解</li></ol></li><li>2) 産婦および家族への看護の必要性<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 分娩経過中の母子の適応状態の確認</li><li>(2) 分娩経過中の母子と家族の看護への参加</li><li>(3) 産婦と家族の出産に対する思いや反応の確認</li><li>(4) 分娩の安全・安楽につながるケアや環境の実際</li></ol></li><li>3) マザークラス、出産前教室、2週間健診、1か月健診における継続看護の実際</li></ol></li><li>4. 周産期医療にある母子をとりまく環境の実際と社会資源の活用方法の理解</li><li>5. 周産期の看護援助における倫理的配慮の実際</li><li>6. 周産期病棟の管理</li><li>7. チーム医療や医師、助産師等多職種との協働</li></ol>				
教科書					
参考図書等	森 恵美他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論（医学書院） 中込 さと子他編：ナーシング・グラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護（メディカ出版） 小林 康江他編：ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践（メディカ出版） 荒木 奈緒他編：ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術（メディカ出版） 仁志田 博司：新生児学入門（医学書院） 荒木 勤：改訂第22版 最新産科学 正常編（文光堂） 荒木 勤：改訂第22版 最新産科学 異常編（文光堂） 井上 裕美他編：病気がみえるvol110 産科（MEDIC MEDIA） その他適宜提示予定				
評価指標	看護実践内容・記録物 100%				

関連科目	疾病・障害論Ⅳ、母性看護学概論、母性看護方法論、母性看護方法論演習
教員から学生へのメッセージ	妊婦・産婦・褥婦や新生児および家族へのよりよい看護ケアのあり方について実践を通して学びましょう。 女性や新生児が持つすばらしい能力を学ぶことができるはずです。